久屋小だより

～気づき　考え　みんなで創り出すⅢ～ 令和５年　９月号

「気づき　考え　みんなで創り出す」㉚
～図工科授業研究会～

「気づき　考え　みんなで創り出す」学びを積み上げ，子ども主体の学びの文化を創造していくことをねらって，日々の授業の充実を図っている久屋小学校です。

９月１３日（水），浜田教育センターの澄川先生，大田市教育委員会の原田先生をお招きし，図工科授業研究会を行いました。授業公開をしたのは２年学級です。子どもたちの学びの姿を見て，「自分の思いから学びを広げていける子たちだな。」と思いました。担任が，長くつないだ新聞を見せると，「もっと長くしたい。」，「いろいろなところにつなげたい。」，「くもの巣のような形にしたい。」などの**気づき**から，どんどん表現活動を進めていきました。その表現活動をしながら，さらに，「虹色にしたらどうなるだろう。きっときれいな色になるだろう。」など，色への**考え**が広がり，表現がいっそう豊かになっていきました。まさに，**「気づき　考え　創り出す」図工科の学習**を子どもたちは展開していました。

岩倉教諭は，この時間につけたい力に向かうために，どんな気づきを引き出し，どんな材料を用意し，気づきと考えを広げるためにどんなかかわりを子どもたちとしていけばよいか準備していました。めざす子どもの姿をイメージしながら，ていねいに授業の準備をしていたことが，子どもたちの主体的な活動につながっていったと考えます。

この授業を受けて，放課後には教職員で授業研究会を行いました。育てたい力，めざす子どもの姿に向かっていくために，**気づきをどのように促し，気づきと思考，表現をどのように広げ，自分の学びをどのように主体的に創っていく**のか，「学習のめあてのつくり方」，「子どもの学びの見取り」，「教師と子どものかかわり方」など，様々な視点から活発な意見交換ができました。このことは，図工科だけではなく，他教科においても大切な授業づくりの考え方です。

全国学力・学習状況調査から分かること

６年生が受検した全国学力・学習状況調査の結果を見ると，算数・国語ともに共通して言える課題が見えます。それは，**「自分の考えを，根拠をもって書く。説明する。」**ことです。これは，本校の６年生に限ったことではなく，大田市全体の課題でもあります。

国語では，問いについて必要な情報を読みとり，条件に沿いながら文章記述をしていく面での弱さが見えます。この力を補っていくためには，**言葉や文章，書き手の文章構成や具体例，説明などを手がかりとしながら人物の心情や場面の様子（叙述），書き手の主張を考えたり，想像したり，書いたりしていく読み方を習得していくこと**が大切だと思います。また，基盤となる読書習慣も大事です。読書を通して語彙を豊かにしたり，想像したり，考えたりしていくことが日常化していけば，きっとそれは子どもたちの読解力の支えになっていくと思います。読書習慣については，引き続き，家庭との連携強化を図りながら取り組んでいきたいと思います。

算数では，既習事項（既に学んで身につけた知識や技能，見方や考え方）などを根拠としながら，自分の考えをもち，書き，伝える面で弱さが見えます。そのためにも，その学年で，学ぶべきことを習得していくことが求められてきます。**「身につける力とは何か」，「活用すべき既習事項とは何か」，「何を考えていけるとよいか」について教師が具体的にビジョン化しながら授業を創っていける**とよいです。

学ぶことの意味や価値を子どもたちが自覚できる教師のしかけも必要になっていきます。子どもたちが「何を学びたいか」，「どうやって学ぶのか」，「学びたい。やりたい。解決したい。」という意識や感覚（気づき）を得ることで，子どもたちは自分の学びの方向を描くことができます。そんな「気づき」を引き出した授業づくりができれば，上記に挙げた学びにも子どもたちは主体的に向かっていけるのではないかと考えています。「気づき　考え　みんなで創り出す」授業の考え方の一つです。

もちろん強みもあります。強みを活かしながら，弱みを伸ばしていくことで，双方の向上につながっていきます。さらには，教師だけでなく，子どもたち自身も，自分（たち）の学びの強みと弱みを自覚することが大事です。教師は日ごろの授業づくりの中で，子どもたちは日ごろの学びの中で，上記のことを視点とした指導と学びができるように，**「気づき　考え　みんなで創り出す」にこだわった取組**を継続していきます。